

令和5年度 畜産試験場の業務推進目標

基本目標（組織目標）

「しあわせ信州創造プラン3.0」及び「第4期長野県食と農業農村振興計画」の実現に向けて、ステップアッププログラムに基づく試験研究の推進、情報の発信及び普及・指導に努め、畜産試験場が本県の畜産振興の拠点となるよう関係機関と連携して取組みを進めます。

心構え

複雑化する社会情勢の中で、地域の動向を的確に捉え、県民・農業者視点で課題等を共有し、地域に寄り添い頼りにされる組織として、研究成果や新技術を追求し、社会実装に向けて積極的に行動するとともに、現場の課題に地域と連携し、協働して対応します。

重点目標

「第4期長野県食と農業農村振興計画」の基本目標である「人と地域が育む未来につづく信州の農業・農村と食」を実現するため、稼げる農業の展開と信州農畜産物の持続的な生産に向け、生産力を強化し収益性を高めるための技術開発及び地球環境に配慮し持続可能な畜産業を実現するための技術開発を柱に据えて試験研究に取り組みます。

○生産力を強化し収益性を高めるための技術開発

◇ 飼料の安定生産に向けた飼料作物新品種の開発

- ・硝酸態窒素が蓄積しにくく、すす紋病に強いスーダングラスを開発します。

◇ 時代の変化に応じ先進技術を活用した家畜の管理、生産性向上技術の開発

- ・AIを活用した牛の迅速な健康診断技術や画像解析を活用した自給飼料の栄養評価技術を開発します。
- ・近赤外画像による飼料成分分析とリンクした飼料計算ソフトを開発します。
- ・自動給餌システムによる豚及び鶏の省力的生産技術を開発します。
- ・養豚におけるICタグ、入力ターミナルの利用等スマート飼養管理技術を開発します。

◇ 高品質畜産物の安定生産技術の開発

- ・乳牛の新健康診断システムによる高品質な生乳及びOPUとIVFを活用した牛肉の生産技術の開発を進めます。
- ・消毒資材の畜舎内噴霧による空間消毒など家畜伝染病の発生リスク等をコントロールする技術の開発に取り組みます
- ・脂肪交雑とオレイン酸に着目した高品質な豚肉及び低脂肪かつ胸部水疱の発生がすくない地鶏肉の生産技術を開発します。

◇ 飼料作物の安定生産技術の開発

- ・多収でかび毒が発生しにくい子実とうもろこしの品種を選定します。
- ・放牧地の生産性向上技術の開発に取り組みます。
- ・牧草生産における難防除雑草（ワルナスビ）対策技術を開発します。

○地球環境に配慮し持続可能な農業を実現するための技術開発

◇ 畜産における地球温暖化対策技術の開発

- ・ 柿皮など地域未利用資源の活用による牛からのメタンガス排出抑制技術を実証します。
- ・ 家畜排せつ物の堆肥化処理における温室効果ガス抑制技術を開発します。

◇ 飼料作物の地球温暖化適応技術の開発

- ・ 高温条件での栽培に適し硝酸態窒素が蓄積しにくいスーダングラスの品種を選定します。
- ・ 地球温暖化に対応した牧草を選定します。

◇ 畜産の環境負荷軽減と資源循環による持続可能性に資する技術の開発

- ・ ワンヘルスの概念による環境中薬剤耐性菌対策に取り組みます。
- ・ アニマルウェルフェア（AW）に配慮した家畜の飼養管理技術を開発します。
- ・ 未利用資源等の飼料活用技術を開発します。
- ・ 養豚における密閉縦型堆肥化処理施設からの臭気発生低減技術を開発します。

◇ 飼料作物の環境負荷低減に資する技術の開発

- ・ ペレット堆肥による（有機農業にも活用できる）減化学肥料栽培技術を開発します。
- ・ 堆肥を活用した子実とうもろこしの減化学肥料栽培技術を開発します。

○ 組織の活性化、県民や関係団体など産官学の連携・協働、その他独自の取組

- ◇ 場全体で家畜伝染病防疫の意識を共有し、徹底した病原体の侵入防止対策に取り組みます。
- ◇ 国や県の研究機関、大学、企業などと連携して先進的な研究開発に努めます。
- ◇ 成果の積極的な情報発信に努め、普及組織と協働して農家への技術移転を進めます。
- ◇ 試験研究、防疫対応、家畜飼養、飼料生産作業に場全体で部横断的に取り組みます。
- ◇ 各畜種において生産成績にこだわり、経営モデルとなる飼養に努めます。
- ◇ 交通事故等の発生防止と風通しの良い職場づくりにより職場の価値観を高めます。
- ◇ 県民に信頼されるようコンプライアンスを推進し、職員一人一人が自己研鑽に努めます。